

【第39回(2018年度)助成研究テーマ一覧】

分野	番号	区分 <sup>注1)</sup>	研究者 (敬称略)	所属(大学・研究機関)	研究テーマ	助成 金額 (千円)	研究 <sup>注2)</sup> 期間
大気	1	一般	茂里 康	和歌山県立医科大学 教養・医学教育大講座	光ナノ複合材料(量子ドット)を用いた、PM2.5に 含有されるガス状大気汚染物質検出法の開発	1,500	継続 2-2
	2	一般	関口 和彦	埼玉大学大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門	マイクロバブリングによるVOCガスと微小粒子の 液相捕捉処理技術の開発と応用	1,000	継続 3-3
	3	一般	坪内 直人	北海道大学大学院 工学研究院附属エネルギー・ マテリアル融合領域研究センター	製鉄プロセスに係わる水銀の発生挙動と排出抑制	1,000	継続 3-3
	4	一般	松田 和秀	東京農工大学 農学部附属広域都市圏フィールド サイエンス教育研究センター	PM2.5窒素成分濃度の長期・広域データベース の開発	1,500	継続 2-2
	5	一般	兼保 直樹	(国研)産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門	PM2.5金属組成および大気主要組成測定を 組合わせたPM2.5発生源解析技術の開発	1,322	継続 2-2
	6	一般	宮崎 雄三	北海道大学低温科学研究所 水・物質循環部門	硫酸塩と粒子含水量が植生由来PM2.5生成へ 及ぼす影響の解明	1,500	継続 2-2
	7	一般	奥田 知明	慶應義塾大学理工学部 応用化学科	サイクロン採取粒子の化学組成と化学形態の 簡便迅速非破壊分析	1,500	継続 2-2
	8	若手	植田 郁生	山梨大学大学院 総合研究部工学域	微小粒状物質中の半揮発性有機化合物の精密 定量に関する基礎的検討	800	継続 2-2
	9	若手	弓本 桂也	九州大学 応用力学研究所	ひまわり8号データを用いたPM2.5同化・予測 システムの開発	1,000	継続 2-2
	10	若手	朱 春茂	(国研)海洋研究開発機構 地球環境観測研究開発センター	東アジア地域における光吸収性有機エアロゾルの 動態解明	1,000	初 1-1
	11	一般	鳥羽 陽	金沢大学 医薬保健研究域薬学系	大気粒子の生物化学的活性酸素産生能予測と 活性寄与物質の同定	1,500	2-1
	12	一般	猪俣 敏	(国研)国立環境研究所 環境計測研究センター	炭素数の少ないアルケンからの新粒子生成に 関する研究	1,500	3-1
	13	一般	亀田 貴之	京都大学大学院 エネルギー科学研究科	石炭燃焼由来の腐植様物質との相互作用による PAHの有害化反応	1,500	初 3-1
土壌・ 水質	14	若手	小野寺 崇	(国研)国立環境研究所 地域環境研究センター	バイオガスを活用した高効率型排水処理リアクター の開発	1,000	継続 2-2
	15	一般	清原 健司	(国研)産業技術総合研究所 無機機能材料研究部門	多孔質電極を用いた新しい水処理技術に関する 計算科学的研究	1,400	初 1-1
	16	一般	尾崎 博明	大阪産業大学 工学部都市創造工学科	安水を対象とする独立栄養細菌を用いる高効率 水処理法の開発	1,500	1-1
	17	一般	橋本 崇史	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	ウルトラファインバブルを用いた膜ろ過処理プロセス の開発	1,500	初 2-1
	18	若手	徳村 雅弘	静岡県立大学大学院 食品栄養環境科学研究院	フェントン型反応を応用した未規制汚染物質の 高効率除去法の開発	1,000	初 2-1
	19	若手	亀井 樹	山梨大学 大学院総合研究部附属 国際流域環境研究センター	排水・上水処理技術を融合した高効率アンモニア 排水処理法の開発	1,000	初 2-1
	20	一般	中里 哲也	(国研)産業技術総合研究所 環境管理研究部門	無試薬真空紫外光反応法を用いた水中毒性物質 の低負担型監視技術	1,500	3-1
	21	若手	荻 崇	広島大学大学院 工学研究科化学工学専攻	アミノ酸を活用するポリ酸形成金属イオンの沈殿 分離回収と再資源化	1,000	継続 2-2

【第39回(2018年度)助成研究テーマ一覧】

分野	番号	区分 <sup>注1)</sup>	研究者 (敬称略)	所属(大学・研究機関)	研究テーマ	助成 金額 (千円)	研究 <sup>注2)</sup> 期間
土 壌 ・ 水 質	22	一般	大橋 晶良	広島大学大学院 工学研究院社会基盤環境工学専攻	マンガン酸化細菌を利用した新規重金属含有 廃鉱山排水処理	1,500	2-1
	23	一般	東 雅之	大阪市立大学大学院 工学研究科	リン酸化酵母を用いた低環境負荷重金属除去・ 回収システムの構築	1,500	初 2-1
	24	一般	岩堀 健治	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	強酸性重金属廃水からの有害金属回収とナノ マテリアル作製	1,500	2-1
	25	若手	堀江 好文	秋田県立大学 生物資源科学部生物環境科学科	胚発生異常の「有無」を指標とした新たな生態 毒性試験法の開発	1,000	初 2-1
	26	若手	村岡 貴博	東京農工大学 グローバルイノベーション研究院	環境モニターと環境浄化に有効な新規微生物 ラベル化法の開発	1,000	初 2-1
	27	一般	飯野 隆夫	(国研)理化学研究所 バイオリソース研究センター	微生物腐食の原因菌である金属腐食性硫酸塩 還元菌の系統保存整備	1,500	3-1
	28	一般	小瀬 知洋	新潟薬科大学 応用生命科学部	カルシウム担持燐炭を用いたリン循環型水田 システムの確立	1,483	初 3-1
	29	若手	長門 Edward 豪	金沢大学 環日本海域環境研究センター	日本海が多環芳香族炭化水素類の挙動と毒性 発現に関する研究	1,000	初 2-1
	30	一般	中島 典之	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	底質環境DNA手法確立のための各種起源由来 DNAの分解動態の定式化	1,500	3-1
	31	若手	眞野 浩行	(国研)産業技術総合研究所 安全科学研究部門	種間差と水質を考慮したミジンコに対するニッケル の生態毒性評価	1,000	継続 2-2
	32	一般	北村 友一	(国研)土木研究所 水環境研究グループ(水質)	メダカ多世代繁殖試験による排水の魚類個体群 存続評価法の開発	1,500	初 3-1
	副 産 物	33	一般	北村 信也	東北大学 多元物質科学研究所	製鋼スラグの完全閉ループ化と有価元素回収	1,500
34		一般	井上 亮	秋田大学大学院 国際資源学科	製鋼スラグ中フリーマグネシアの水和抑制	1,500	継続 2-2
35		若手	伊藤 洋介	名古屋工業大学 社会工学専攻建築・デザイン分野	電気炉酸化スラグを骨材としたモルタルの電波 吸収性能の向上	1,000	継続 2-2
36		若手	平木 岳人	東北大学大学院 工学研究科	難処理性製鋼スラグを原料とした水質浄化材料 の合成	1,000	継続 2-2
37		若手	崔 瑛	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院	スラグ混合土を用いた河川堤防浸透対策の提案	1,000	継続 2-2
38		一般	日比野 忠史	広島大学大学院 工学研究科	鉄鋼スラグの環境浄化性能を高めるための電極 技術利用法の確立	1,500	継続 3-2
39		一般	三木 理	金沢大学 理工研究域サステナブルエネルギー 研究センター	カルシウム改質土による微細藻類の発生抑制と 機構解明	1,000	継続 3-3
40		一般	名和 豊春	北海道大学	エマルジョンとナノ粒子による高炉スラグ硬化体 の初期強度・耐凍害性の改善	1,000	継続 3-3
41		一般	山本 光夫	東京大学 海洋アライアンス	海域への鉄及び窒素・リンの供給と藻場形成との 関係性評価	1,500	2-1
42		一般	佐藤 努	北海道大学大学院 工学研究院環境循環システム部門	製鋼スラグを用いた改良土の硬化に対する堆積泥 有機物の影響評価	1,500	2-1

【第39回(2018年度)助成研究テーマ一覧】

分野	番号	区分 <sup>注1)</sup>	研究者 (敬称略)	所属(大学・研究機関)	研究テーマ	助成 金額 (千円)	研究 <sup>注2)</sup> 期間
副産物	43	一般	内田 祐一	日本工業大学 基幹工学部応用化学科	鉄鋼スラグを活用した難利用リン資源の複合抽出 技術の研究	1,500	初 2-1
	44	若手	片山 裕美	八戸工業大学 工学部生命環境科学科	有機汚染物質の化学的浄化に向けたスラグの 触媒利用に関する研究	1,000	初 2-1
	45	若手	今宿 晋	東北大学 金属材料研究所	製鋼スラグの再利用率と品質を向上させるための 新規分析法の確立	1,000	初 2-1
	46	若手	原 弘行	山口大学大学院 創成科学研究科	飽和度に着目した高炉水砕スラグの盛土材料と しての優位性の解明	1,000	初 2-1
	47	若手	望月 友貴	北海道大学大学院 工学研究院附属エネルギー・ マテリアル融合領域研究センター	塩化揮発法による鉄鋼スラグの高効率資源化技術 の開発	1,000	初 2-1
	48	一般	鈴木 道生	東京大学大学院 農学生命科学研究科	微生物を用いた鉄鋼スラグの藻場造成資材として 高度利用法の開発	1,500	3-1
	49	一般	野中 寛	三重大学大学院 生物資源学研究所資源循環学専攻	セルロース系増粘剤を用いた鉄鋼スラグ押出 成形品の開発	1,500	初 3-1
地球環境	50	一般	村上 太一	東北大学大学院 環境科学研究科	排熱と未炭化バイオマスをを用いた極低環境負荷 迅速製鉄	1,500	継続 2-2
	51	若手	夏井 俊悟	北海道大学大学院 工学研究院材料科学部門	大規模離散要素による劣質コークス層内溶融 スラグ流れの最適化	1,000	継続 2-2
	52	一般	加藤 之貴	東京工業大学 科学技術創成研究院 先導原子力研究所	炭素循環製鉄のための二酸化炭素資源化技術 の確立	1,500	継続 3-2
	53	若手	渡部 弘達	東京工業大学 工学院機械系	ダイレクトカーボン燃料電池を活用した炭素析出 抑制の研究	1,000	初 2-1
	54	一般	武居 昌宏	千葉大学大学院 工学研究院	水素還元高炉内のリアルタイム3Dモニタリングと 粉体分布制御	1,500	初 3-1
	55	若手	能村 貴宏	北海道大学大学院 工学研究院附属エネルギー・ マテリアル融合領域研究センター	液相燃焼合成によるナノスケール分散型化学 蓄熱材料の開発	1,000	継続 2-2
	56	若手	浅岡 龍徳	信州大学 学術研究院(工学系)	吸収式水スラリー生成機による低質未利用熱の 有効活用	1,000	初 2-1
	57	若手	高辻 義行	九州工業大学大学院 生命工学研究科	多孔質亜鉛電極によるCO <sub>2</sub> 資源化とその反応 機序解明	1,000	継続 2-2
	58	若手	本林 健太	名古屋工業大学 工学研究科	界面デザインによるイオン液体中のCO <sub>2</sub> の電解 還元反応の高効率化	1,000	継続 2-2
	59	一般	増田 秀樹	名古屋工業大学 ナノ材料・機能分子創製研究所	炭酸ガスからメタノールへの革新的変換技術の 創製	1,500	初 2-1
	60	一般	野呂 真一郎	北海道大学大学院 地球環境科学研究院	柔らかい多孔性物質による高効率二酸化炭素 分離材料の創製	1,500	初 3-1

注1) 若手: 2018年4月1日現在の満年齢が39歳以下の研究者  
(ただし、研究期間2年計画の初年度は38歳以下の研究者)

注2) 研究期間: a-b; 研究期間a年中b年目、  
継続: 継続案件、初: 初めての助成研究者